教育広報 南会

編集・発行　福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者　石　本　浩　一
編集協力　市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会

2020年がスタートしました 令和2年の始まりです

今年は、十二支でいうと「子」の年。また、十干では「庚」ですので、令和２年2020年は「庚子（かのえね）」となります。

「子」は十二支のスタートであり、繁栄・発展の年とされ、「庚」は物事が結実し、成長するとの意味をもつとされています。つまり、「庚子」は新しく始めることがとてもうまくいくことを意味しているのです。

稜線から昇る朝日と伊南川（只見町山里橋にて）

今年は、ここ南会津で、多くの学校で複式の学級編制、そして指導が始まる年です。少人数での指導のよさを生かし、子供一人一人の能力の伸長を図っていくため、指導者である教師自身の指導力の向上が求められています。「庚子」の年にあたり、個に応じた細かな指導のさらなる充実と、縦関係の中で人間関係の幅を広げさせる複式指導のスタートの年ととらえ、「複式指導だからできる南会津ならではの教育」を目指していきたいと考えます。

『　天　然　少　年　』

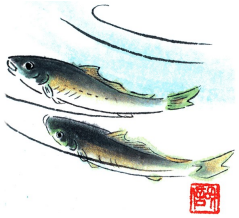
南会津町教育長
星　　英雄

「天然物はいいな」という話をよく聞く。「天然イワナ」や「天然マイタケ」、「天然水」などがある。ただ、天然物は数が少なく、高価な物も多いため、口にできる人が限られる。そのため、天然物の美味しさを安い価格で、手軽に味わえるように養殖や栽培が行われている。

さて、人間にも「天然物」があるのだろうか。おそらく大昔の殆どの人間は、自然の物を食し、自然から多くの事を学んで知恵を付け、逞しく育った天然物だったと思う。しかし、人間社会が形成され、徐々に自然が開かれて来ると、天然物の人間は減少していったと考える。更に、社会などからの求めで、同じような能力や考えを持った人材の育成が始まると、自然の中で学ぶことが少なくなり、ますます、天然物の人間が減少したのではないだろうか。現在も、学校などの統一された環境で人材の育成が行われており、もはや１００％天然物の人間は存在しないのかもしれない。

ところで、天然物の人間は、食べ物と同じように人々から求められているだろうか。おそらく今のような社会なので、自然の中で逞しさや知恵を学んだ人間に魅力を感じ、１００％の天然物でなくても求める人は多いと思う。ただ、そのような人間が育つためには、豊かな自然やそこで暮らす人々が必要である。それが揃う場所こそ「南会津」だと思う。

その「南会津」に都市部からたくさんの子供たちが訪れ学んでいる。おそらく天然物の魅力に気付いているのかもしれない。今、南会津の子供たちはその「南会津」の真っ只中にいる。その魅力を身に付けるチャンスはいくらでもある。



これからの社会をより良く生きるためには、子供の頃の豊かな体験に裏打ちされた知識や知恵が必要だといわれている。是非、南会津の子供たちには、自然の中で元気に育つ「天然少年」であって欲しい。

『南会津』がつむぐ南会津ならではの学校教育！
～郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子供の育成～

「学びのスタンダード」推進事業
パイロット校Ⅰ:下郷町立下郷中学校　　パイロット校Ⅱ：下郷町立楢原小学校

平成２９年度よりスタートした本事業は、推進地域である下郷町において、まとめとなる３年目の取組を行ってきました。推進教師を中心に、パイロット校Ⅰの下郷中学校では、教科「タテ持ち」の授業、パイロット校Ⅱの楢原小学校では、教科担任制の授業に取り組んできました。あわせて「スタンダードだより」の発行と発信を通して、推進地域各校の共通理解に立った実践にも努めてきました。

それらの取組状況や成果を域内で共有するため、11 月 12 日(火)に、下郷中学校で国語科と数学科の授業を公開するとともに、福島大学人間発達文化学類坂本篤史准教授による講演会を行いました。また、11 月 22 日(金)には、楢原小学校で国語科と算数科の授業を公開しました。両校の授業公開には、域外からも多くの先生方が参加し、活発な協議が行われました。それらを通して、互いに関わり合いながら学びを深める子供の育成はどうあればよいかについて、児童生徒の学びの姿を基に深めることができました。

下郷中授業公開　２年数学科

楢原小授業公開　４学年算数

家庭学習スタンダードの啓発

下郷町四つ葉のクローバープランを土台とした３年間に及ぶ継続的な取組を通して、両校には「授業スタンダード」及び「家庭学習スタンダード」の活用の在り方等について具体的実践例を提示していただきました。４月から、いよいよ小学校において新学習指導要領が全面実施となります。各校では、これらの取組を参考にし、自校の実態や課題に応じながら、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを推進してください。

道徳教育地区別研修会より

８月２日(金)、御蔵入交流館において、中学校で全面実施となった「特別の教科 道徳」の地区別研修会に、中学校の道徳教育推進教師が参加し行いました。

グループ協議では、教科書教材を使用し、授業で予想される生徒の様子や発言、ワークシートへの記述等を考えたり、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、評価するかを話し合ったりしました。さらに、各グループで協議・作成した評価文について発表し、質疑応答を行いました。

参加者された先生からは、「新たな視点に気付き、評価内容について理解を深められた。」「評価文の書き方について校内研修で取り上げたい。」「評価方法が詳しく分かった。生徒の記録累積などを工夫したい。」などの感想が寄せられました。

各学校では、児童生徒を「認め、励ます評価」についての研修を組織的・計画的に進めていることと思います。「どんなことを気付かせ、考えさせたいのか」を明確にした魅力的な授業づくりから、一人一人の道徳的な成長を見取るとともに、教師自身の授業力を高め授業改善につなげることができるよう「チーム学校」で取り組んでいきましょう。

地域と共に創る放射線・防災教育推進事業
～実践協力校公開授業・地区別研究協議会～

10 月 29 日(火)、防災教育実践協力校である荒海中学校において公開授業等が行われました。

社会科の授業では、災害時における中学生の行動のあり方について、グループごとに話し合ったり、地域の消防団長さんから話を伺ったりしました。後半は磐梯山噴火記念館の佐藤公館長さんより、自分達の大地を知る大切さについて講演いただきました。災害発生時に安全かつ迅速に自分の命を守ることができるよう、各学校においても防災ハザードマップ等を生かした防災計画の整備をお願いします。

また、11 月 26 日(火)には、御蔵入交流館にて地区別研究協議会が行われ、滋賀大学の藤岡達也教授より「放射線・防災教育の意義」について講演をいただきました。研究協議では「避難訓練」に焦点を絞り、中学校区のグループで自校の現状と課題について情報交換を行うとともに、自分の命を守るための防災教育の在り方を再確認しました。次年度の避難訓練を見直すきっかけとしてください。